入選

誰かのために働く

第六学年　K・Y

「何のために働くのか。」という問いに対して、私は、「誰かのために」だと思う。この「誰か」とはお客様や消費者、買い手のことだ。

しかし、顔も名前も分からない相手のためになぜそんなにも働くのか。それはきっと相手が喜ぶところや幸せにしているところを想像している人は、自農家さんやものづくりをしている人は、自分のつくったものを受け取って笑顔でいる人を思いうかべて、企業に勤める人はお客様のニーズに合わせて、それらをモチベーションとして働くと思うからだ。

今、私が気になっている仕事は、「ものづくり」だ。それは、自分のつくったもので誰かが喜んでいる、笑顔でいるところを想像するとワクワクするからだ。誰かのために働くことに魅力を感じたからだ。

20 × 20

このように、「何のために働くか」は、「誰かのために」だと考える。誰かを想像し思うことで働くと、私は考える。